

**留学先国名** : デンマーク

**留学先学校名** : University of Copenhagen

**留学期間** : 平成 28 年 2 月 1 日 ~ 平成 29 年 1 月 11 日

コペンハーゲン大学に留学して、当初は慣れない文化や日本語を全く使わない生活がとても大変でした。例えばスーパーに買い物に行く際、デンマークの公用語は英語ではなくデンマーク語であったので、デンマーク語の勉強を全くしていなかった私は商品の表示が全く読めず、小麦粉とパン粉といったような一見しただけではわからないような類似品の購入が難しいことがしばしばありました。しかし、1 か月もすると次第に新しい生活にも慣れていき、日本の生活よりも便利だと感じることも増えていきました。例えばデンマークでは国内のほとんどすべての道路に自転車専用道路が設置されており、街もコンパクトなことから国民の自転車使用率は非常に高く、私も通学には自転車を使用していました。当初は右側一步通行であることや、ハンドシグナルなど独自の交通ルールになれず、不便だと感じていました。しかし、次第に慣れてくると、歩行者や自動車と分離されていることから、事故の危険性も少なく安心して乗ることができ、とても便利だと感じるようになりました。

授業に関して、コペンハーゲン大学では留学生用の授業は全て英語で行われているため、新しくデンマーク語を学ぶ必要はありませんでした。しかし、授業や教科書で使用される英単語は非常に専門性が高く難しいため、毎日の予習が欠かせませんでした。試験に関して、筆記試験やレポートといった日本の大学で一般的に行われている試験に加えて、口頭試験という独自の試験があったことが特徴的でした。私の場合、前期では法学部、社会学部、政治科学部の授業をそれぞれ一つずつ受講し、後期では政治科学部の授業を二つ、デンマーク文化コースの授業を一つ受講しました。法学部の授業は期末筆記試験であり、4 時間のテストを受けました。社会科学部の授業では期末レポートが評価され、ワード形式で 15 枚以内（36000 字以内。字間含まず。）であり、今まで英語のレポートを書いたことがなく、また非常に長文であったことからかなり苦労しました。政治科学部の授業では口頭試験が課されました。口頭試験では、試験前に小レポートを提出し、その後自らが提出したレポートに基づき約 20 分間の質疑応答を先生と交わします。このような試験は初めてであったので、とても緊張しました。授業は週に 3 コマしかとることができなかったので、自由な時間がかなり多いと感じました。空き時間には予習以外にはほかの留学生と遊んだ他、コペンハーゲン市が提供するスポーツクラブに参加しました。私はダンスを選び、週に一回地元の方々と一緒に汗を流しました。また後期では、現地で活躍するコンサルタント企業である北欧研究所でインターンシップを始めました。インターンシップでは主に日本企業のデンマーク進出支援やレポート作成の補助を担当していました。

今回の留学の成果としては、第一に英語力の向上が挙げられます。前述したとおりデンマークの公用語はデンマーク語ですが、留学生用の授業は全て英語であること、現地のほぼすべての人が英語を流暢に話することができることから、日常生活においてほとんど英語しか使いませんでした。そのため必然的に英語を

使うことで自然と教科書を読む速度が速くなっていき、また聞き取れる英語が増えていきました。英語力以外に私は内面的変化も今回の留学の大きな成果だと感じています。留学する以前は授業や私生活において私は受動的で、留学当初は他の留学生よりも英語を流暢に話すことができないことに引け目を感じ、自分の思ったことを言えないときもありました。しかし、一年という短期間でできるだけたくさんの経験をしたいという思いから何事にも自分から行動するようになりました。すると、他の留学生と話するときも「下手でもいいから伝えよう」という思いでどんどん積極的に行動することができました。またデンマーク人のみならず世界各国から来る留学生との交流を通じて、今まで自分が常識だと考えていたことが全然常識ではないと気付かされるが多々あり、自分の視野が広がりました。

将来は農林水産省で働きたいと考えています。農林水産省で働く上で、国家公務員として国民の抱える問題や要望を幅広くみ取る視野の広さと、国家レベルから農山漁村といった地方自治体レベルで行動する実行力が必要だと考えています。その際には今回の留学で学んだ経験を活かせると考えています。

これから留学する人へのアドバイスとして、まず一つ目は留学前の勉強がとても大事で、かつ大変なことだと思います。私も留学する以前、留学経験のある大学の先輩から同様のアドバイスを受け英語の勉強はしていたつもりでした。しかし実際に留学して、他の留学生や現地の学生との英語力の差に愕然としました。特に最初のころは思うように自分の言いたいことが伝えられずもどかしい思いをしました。授業において、私は EU の社会保障制度に関する授業を受講したのですが、EU に関する前提知識がなかったため、授業についていくことに必死で、ディスカッションではあまり積極的に発言することができませんでした。留学前に英語や自分の専門についてしっかり勉強することで、留学中により積極的に行動することができ、チャンスも広がると思います。

二つ目には何事にも挑戦することが大切だと考えます。留学する大学によって異なるとは思いますが、私の留学したコペンハーゲン大学では 1 セメスターで最大 3 つか 4 つまでしか授業を受講することができず、日本の大学にいた頃よりも自由な時間が多かったように感じます。世界各国から来る留学生と交流することができるというのは留学の大きな意義の 1 つだと考えるので、私はできるだけ多くの人と交流できるように努めました。例えば学部の主催するイベントにはできるだけ参加するようにしました。そうすることによって、授業では会うことのできなかった留学生やメンターの方と交流することができました。また、市が提供するスポーツクラブに参加することで、現地のデンマーク人の方と仲良くなることができました。授業外の時間をどう使うかによって、留学が有意義なものになるかどうかが変わってくると思います。